

**令和２年度秋田県総合政策審議会  
第２回 人・ものの交流拡大部会  
(議事要旨)**

１ 日時 令和２年８月７日（金）１４：００～１６：００

２ 場所 総合庁舎４０２・４０３会議室

３ 出席者（敬称略）

**【人・ものの交流拡大部会委員】**

佐野 元彦・・・秋田ノーザンハピネッツ株式会社 代表取締役会長

関口 久美子・・・株式会社トースト 常務取締役

日野 智・・・秋田大学大学院理工学研究科 准教授

沓澤 優子・・・有限会社アシスト実務工房 代表取締役

**【県】**

観光文化スポーツ部 次長 奈良 聡

インバウンド推進統括監 益子 和秀

各課課長 ほか

**４ 佐野部会長あいさつ**

秋田市内で大きなクラスターが発生した。首都圏はじめ大都市圏で感染症が再拡大をしているため３密を避けるといった対策を徹底しなければいけない。

今回は前回の意見をまとめつつ、各担当部署ですで行っている対策等の説明もしてもらいながら議論を深めていきたいのでよろしくお願いします。

また昨年度の部会で出された意見で、前回、触れられなかったこと等も提言を膨らませていく上で重要なものもあるので、そちらについても委員の皆様からご意見をいただきたい。

**５ 議事**

(１)「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」戦略４の推進に係る施策の提言について

□佐藤観光戦略課長

資料１は、第１回の部会でいただいた意見の内容とそれに対応する県の実施状況等を戦略４の６つの施策ごとに取りまとめたものである。この後、県の担当課から説明して参りたい。

### 施策 1

- ☐佐藤観光戦略課長 項目 1・3
- ☐笠井観光振興課長 項目 2・4・5・6・7
- ☐小松交通政策課長 項目 5
- ☐柴田秋田うまいもの販売課長 項目 6
- ☐吉井スポーツ振興課長 項目 6
- ☐石井文化振興課長 項目 6

### ●関口委員

例えば、旅行会社のエージェントからご予約前に受ける質問の中に「何のガイドラインを適用していますか」というものがあるなど、コロナにおいて送客時の受入の質について、確認されているという実感がある。ガイドラインの大部分については多くのことが網羅されているはずなのだが、団体旅行はまだしも、パーソナル旅行の場合には講じている対策についての確認がわかりにくい部分があるので、県内の各施設・飲食店・宿泊施設等の全部に共通する対応策についてわかりやすくする視点が重要ではないか。

反対にエージェントには、受入側から「当日はこういうふうにして欲しい」というお願いをしている。例えば、団体の場合は食事の際は、席の占有率等の関係で密になりやすいので、お食事後、晴れているときは湖畔散策をおすすめすることもある。

添乗員には、お客様の健康状況等確認事項に対してサインしていただくというようなこともしている。このような取組が、さらに安全性を高めることになると思うので、受け入れ側と、送客側との相互の連携は大切である。

### ●関口委員

現在、弊社では、新型コロナが流行する前の価格設定で行っている状況だが、スタッフのグローブや除菌にかかる費用等、それらをコロナ対策費用として計上してもいいものかどうか非常に悩ましい。長期戦にもなっているので、こうした取組が経費的に圧迫しているという実感がある。今後、業界としての動きも注視していくと共に、「安全対策は費用がかかる」という気運が高まる事も期待したい。

### ●沓澤委員

交流促進による旅行者の満足度の向上という項目で、山の案内、ジオパークガイドなどは検索できたとしても、具体的にどういったキャリアの方々がどういう風に案内してくれるのかが、よくわからないこともある。地域をもっと楽しみたいという方が欲する情報へのアクセスを分かりやすくし、内容を充実させないと利用に繋がらないのではないかと。

受入態勢整備の一環として研修会を実施とあるが、具体的にどのような研修会なのか。

□笠井観光振興課長

具体的には未定だが、地域の人との触れ合いや、地域の暮らしに魅力を感じる旅は満足度が高いので、他県で成功している事例を調べ、地域でコーディネートしている方などに来ていただき講義していただくような研修も含めて考えている。

●沓澤委員

二次アクセスについて、レンタカーを始めるには、「わ」ナンバー登録、登録免許税、保険加入が必要のようだ。また、保険については、現在加入している保険から、貸出のための保険に変更できるという話を聞いた。いずれにしろ、それほど実現困難ではないと思うので検討していただきたい。

□小松交通政策課長

委員ご指摘のように、保険加入や運輸局への手続きなどを経て、事業許可を取得すればレンタカー事業の実施は可能である。

●沓澤委員

そうした手続きが事業をやりたい人にとって障壁にならないように、登録免許税に対する補助金をつくっていただくとか、スムーズにいけるようにしていただけるとありがたい。

●沓澤委員

新型コロナウイルス感染症対策について、従業員の安全の確保と、感染源にならないようどうしたらよいかという工夫について、常に悩みながら飲食店をやっている。

県内施設における、マスクやグローブの着用率など安全対策の取組状況を把握しているものか。

□佐藤観光戦略課長

業界によって施設数も多いため、そうした把握は難しい。ただ、県内の旅館組合が、こちらは会員が全国チェーンのホテルから個人まで幅広く加入しているが、会員の意見も聞きながら、自分たちが実施する共通事項を県独自の基準として作成して、これを実践していますということ、加えて、施設によってはこんな独自の取組もしています、と書き込めるポスターを作成し、掲示しようと検討しているようだ。

●日野委員

ガイドラインは、どこかでチェックする機構というのはあるのか。適当に作られたガイドラインが出てきてしまうと意味がない。

□佐藤観光戦略課長

ガイドラインについては、それぞれの業界団体が専門家等の意見を聞きながら作り、それを下部組織にも提供しているというのが実態である。これを型どおり全て実施となれば特に個人経営の施設には大変なことでもあるので、例えば、県内の組合で、個人経営施設の状況も見ながら、最低限やらなければいけないことをつくり、これに施設が独自に取り組むものをプラスできるようにするのが現実的ではないかということで、独自のガイドラインづくりなどが検討されているようだ。

ただ、あくまでもベースになるのは全国のガイドラインである。

●日野委員

そのガイドラインが広く普及され、どのように実施されているのか把握ができるとより良い。

□佐藤観光戦略課長

例えば、県が飲食店に営業許可を出すときには、そうした対策等も踏まえ指導・許可をしていくことになるので、業界が定めたガイドラインの取組状況についても検査・確認も行っていくことになるだろう。

●日野委員

二次アクセスについてだが、市町村の地域公共交通会議などで、ということであるが、現状では市町村はそこまで考えが回らないこともあるし、観光業がメンバーに入っていないこともあるので、県の方から情報発信するなど積極的に関わって行って欲しい。

□小松交通政策課長

ご指摘いただいた観点での対応を進めていきたい。

●佐野部会長

ガイドラインについてだが、東京都の飲食店がやっている感染防止対策がきちんとなされている証明としてのステッカーと同じように、取組状況が見える化見せる化することが大事。ネットで紹介するだけでなく、実際に訪れた施設でも掲示されていることで安心感が増すものであり、こうした工夫が今後必要になるのではないかな。

二次アクセスのレンタカーについてだが、自動車整備工場の代車がレンタカー登録されているということであった。隙間を埋める二次アクセスにもなるかもしれないので、秋田県レンタカー協会に相談してみることで、協力してくれる方やエリアというのがみえてきて、実現の可能性が出てくるかもしれない。タクシーやバスといった、一見すると競合するように思える交通事業者に対しても、協会を通すことで二次アクセスへの協力の説明がしやす

くなるのではないかと。

情報発信の時に、商品の作り手や、発信者の顔がみえるようなところが肝となる。人と人を繋ぐというところはリモートで可能であり、様々な情報発信のところで、こうしたことをポイントにしてほしい。また LINE@については、現在秋田県で新型コロナ対策パーソナルサポートを使っているようだが、観光の面でも活用していけるのではないかと。

ワーケーションについてだが、回線の安定性・通信環境をしっかりと整備していくというところは、ぜひ、県や地方自治体に重要な施策としてやっていただきたい。これについては移住定住の呼び水にもできるのではという議論がある。通信業者等々と協議し環境を整備してほしい。

東北が連携した経済循環の促進というところで、その地域の観光のキャンペーンだけではなくて、東北 6 県とプラス新潟の 7 県で、お互いの地域で利用できる共通商品券といった、観光だけではなく物を買うというところにも着目して、そういう仕組みについても、ぜひ秋田県から提案してもらえればありがたい。

## 施策 2

□柴田秋田うまいもの販売課長 項目 8・9

### ●関口委員

肉醬の商品化が既に行われているということだが、内臓も使っているのか。

□柴田秋田うまいもの販売課長

細かい部分まではまだ明かしてもらっていないため、不明である。

### ●関口委員

肉醬は、コロナ禍により高級食材ほど余っているという状況を受けての発言だったが、内臓物の中には有用菌や酵素も含まれるので、ぜひ活用して欲しい。

また、秋田県が「発酵県である」と発信しているという認識がどれほど観光客の方にあるだろうか。発酵文化はどこの県にもあるものなので、秋田の発酵食品のここに注目して欲しいとか、何が他県と違うのかという部分の発信を際立たせないと、秋田県イコール発酵というイメージにならないのではないかと。こうしたことを踏まえ、戦略を立てながら、「だから秋田は“発酵県”なんだ」という発信の仕方にするべきではないかと。

### ●関口委員

弊社では食材だけでなく、調味料も県産を使っていきたいと考えており、実際にメニューで使用しているものの販売も店内ショップで行っている。メニューには何が使用されているか明記しているので、その取組が確実にお土産購入につながっているという実感がある。

しょつづの使用方法は幅が広く、お客様に何にどのように使用すればいいのかをお伝えするとすぐ反応が良く、まとめ買いしてくれる人もいます。販売員に対するプロモーション力の向上を図るというのも、商品売上げの拡大につながる。

また、調味料の場合、液体なのか粉体なのかといった形状別の開発も視野に入れるべきである。これにより、加工適性が格段に向上するはずである。

●日野委員

発酵食品の出荷額が秋田県は全国 2 位ということだが、1 位はどこか。

□柴田秋田うまいもの販売課長

和歌山県である。

●日野委員

ぜひ、その情報を使って県内外に PR していくべきである。また発酵といえばお酒のイメージが強いが、お酒に興味がない人にすれば敬遠される可能性もある。味噌や納豆といった多彩な食品も PR できれば良い。

加工食品について、私も実際そうだが、観光で訪れた先の店で料理に使用されている調味料などの説明があれば、購入のきっかけになる。

●沓澤委員

キャリアのあるシェフの方たちが地元に戻り、素敵な店も増えていることは、地元の人にとって、秋田の良さを考えなおすことができる良い機会である。

一方で、極一般的に外食をする場や居酒屋では、地元産品を使っているところが多くないように感じている。これを変えるためにも、地元のものを使うようなキャンペーンといったようなものがあればいいと思うし、飲食店などが利用しやすいよう送料などの費用を抑えて安定的に仕入れる仕組みをつくることできれば、地産地消のメニューが増え、観光にも良い結果となるのではないか。

米粉は小麦の代わりとして加工しやすく、むしろ小麦よりも良くできるものがある。一般家庭でも、小麦粉から米粉への置き換えを促していくとか、使いやすいパッケージや代用時のコツみたいなものが付帯できれば良い。

●佐野部会長

発酵食品出荷額全国 2 位ということを大々的に打ち出せれば、非常に秋田の食にとってはプラスになる。

地元の食材を使うシェフの方たちにネットワークを作ってもらったらどうだろうか。そのことで、お互いの技術の研鑽にもつながるだろうし、秋田に来た観光客が、地元食材を使

ったレストラン・居酒屋めぐりとして、海から始め、内陸から今度は山の方まで行くといった周遊型観光としての楽しみ方ができるのではないかな。

今のこの環境の中でサプライチェーンの内製化が議論になっており、食に関しても県内でまわせるようになることが大事である。生産者と提供者のマッチングの機会を増やす商談会を、地元秋田の方々に力点をおいて実施することも必要ではないか。その際、商品知識向上のためにも販売員に対する講習などがあったら良い。

### 施策 3

□笠井観光振興課長 項目 1 0

□石井文化振興課長 項目 1 0 ・ 1 1

#### ●関口委員

伝統芸能・祭りの開催にあたっては、コロナ禍において演者、鑑賞者の両方が楽しめるような形を模索しているところであるだろうが、一部で実施されているような映像配信から、果たして、醍醐味であるライブ感や熱気が伝わるのだろうか。祭り等のライブ感や熱気を伝えつつ、安全性も担保する最大公約数をどこにしていけるのか、一つの検討点になってくる。

伝統芸能の継承についてだが、民謡が盛んな秋田である。例えば、なぜ民謡が生まれたのかという背景を、子供の夏休みの研究テーマといった教育との連動性から掘り下げるという切り口もあるだろう。また、民謡的な発声を与える健康への好影響を検証しつつ、県民の健康は秋田民謡を歌うことで醸成していくという健康と民謡を異なる視点でとらえる「民謡をうたって、明るく健康」という、何かそういうテーマも成立するのではないかな。

#### ●沓澤委員

羽後町の西馬音内盆踊りについて活動されている方々がいるが、踊り手の方が幅広い年齢層でバランスが良いと感じている。現地以外に招かれて披露して喜んでもらえることで、自分もうれしいし、そうしたなかで、これを維持しよう、次世代にも伝えようという気持ちが強くなるからではないか。こうした活動には自費で出かけていくこともあるようだ。なにかサポートできるような仕組みがあるといい。

#### ●日野委員

披露できる場を増やすというのは、外部に知ってもらえる機会にもなるし、披露する側のモチベーションにもつながるので有効である。

ただ、お祭りなどの場合、伝統と時代の変化をどう両立させていくのか、またどう折り合いをつけていくかという部分は非常に答えが出づらいたくが、考えていかなければいけない。

担い手に関しても、人口が減る中で今までどおりは難しいとすれば地域外の方が入るこ

ともあると思うが、それに対しては地元の方の反発もあるかもしれない。新しく参加してくれた人に、今までの伝統や文化の考え方をうまく伝えていくとか、参加範囲を広げていったときに、広げていくことで今までのものが壊れない、崩れないような仕組みを考えていかなければならない。

●佐野部会長

伝統行事やお祭りは神事であり、色々なことを取り入れてくのは難しいだろうが、このままでは廃れて神事がなくなるのだという可能性についても言及しながら、継続していくためにはどんな工夫が必要かを問いかけていく必要があるだろう。

その中で、祭りを作り上げていく過程を体験する、お祭り体験ツアーといったものに関わってもらった方たちを取り込んでいくことや、県外にいる秋田県出身の方たちに祭り期間に秋田に来てもらうなど、祭りを通じて秋田の関係人口づくりをしていくような取組もあるのではないかな。

**施策 4**

□吉井スポーツ振興課長 項目 1 2

●日野委員

東京オリンピック・パラリンピック関係国との交流は、きっと県民の方々の記憶に残るものでもあるので、昨今の状況で大変なところもあるが進めていただきたい。

●佐野部会長

人間のモチベーションが上がるのは、人同士が競り合うことや、インセンティブがあることであり、例えば、ウォーキング歩数を競う対戦型のアプリの制作・導入や、歩いた歩数に応じて商店等で使えるちょっとした割引券の配布といったものがあれば、スポーツ実施率向上の一助につながるのではないかな。

**施策 5**

□浅井道路課長 項目 1 3

●日野委員

部会等で出された情報を吸い上げるなどしながら、道路整備による効果が県にどのような利益をもたらしているかというようなPRをして欲しい。

道の駅について、最近整備が進んでいる高規格幹線道路を利用される方が多いなかで、従来の道の駅に関しては従来の国道に沿った形が多いような気がする。

道の駅の利用がしづらくなっていないか、道の駅の配置や、案内といった部分で何かでき

るのではないか。

●佐野部会長

道の駅の配置、場所を変えらるとなると大規模な投資が必要だが、高規格幹線道路から、道の駅に関する案内表示といった工夫はぜひお願いしたい。

●関口委員

現在秋田の高速道路から、道の駅に降りていくことは出来るか。

□浅井道路課長

県内の高速道路には有料区間と無料区間あるが、県内の高速道路は給油所がなかなかない。無料区間に関しては、そこで降りてきたところに、道の駅もしくは給油所があり、ある一定の時間内で高速道路へ戻れば、そのままの料金が継続される仕組みになっている。

●関口委員

何ヶ所ぐらいあるのか。

□浅井道路課長

例えば北のほうで二ツ井の道の駅、降りてすぐに給油所がある。あと湯瀬の方も含め、数カ所ある。

●関口委員

例えば、各所では温泉を楽しんでからまた高速道路に戻るといった楽しみ方が発信されてるので、当県もそのあたりが拡充してくると、高速道路を利用して秋田に入っても楽しいよという発信も出来るのではと思う。

●沓澤委員

例えば横手だと手前に降りられる場所が出来たりしているが、今後そういった箇所が増えていく予定なのか。

□浅井道路課長

横手北 IC のことだとすれば、市町村が実施主体となり作ったものである。今のところ、新たな計画はない。

●沓澤委員

市の予算か。

□浅井道路課長

市が事業主体になり、国の補助事業を受けて、市の持ち出しの部分には、さらに県がまた補助を出すことで市の負担は少なくなるような制度設計をしている。あくまでも事業主体は市町村になる。

●沓澤委員

例えば、作りたいと手を上げた市町村は、概ね認められるのか。

□浅井道路課長

どこにつくるかにもよるが、例えば横手北 IC であると N E X C O の管理区間につなげており、最終的には N E X C O が連結許可を出さなければ作れない。連結することによって得られる効果がしっかり出ないといけないので、手をあげれば良いというわけにはいかない。

●沓澤委員

旅行者にとって、インターチェンジの名前が観光地の名前だとわかりやすいのではないと思う。その意味で IC の設置が簡易に出来るか伺ったもの。

案内表示に観光地名が入ることはよくあるのか。

□浅井道路課長

まず、インター名は地元の希望を伺ってということになる。それにどういう付属の案内をつけるかは、地元からの要望があれば観光地名を入れることもできる。

●佐野部会長

地元にある観光素材、それをどういうふうに活用しようか、という盛り上がりがあつて、こんな案内標識を作って欲しいという提案が、どんどんあがってくるような形ができればいいし、分かり易く、かつ興味の沸くような表示を作ってますよ、という先進例を作って増やしていくようにしてはどうか。

## 施策 6

□小松交通政策課長 項目 1 4

●日野委員

特に自治体との関係に関しては市町村の会議等では、県から発言をいただいているところだが、もっと積極的に発言をして欲しい。その方がより議論が進むだろう。

三セクに関してだが、各鉄道会社、自治会の方もいろいろと努力しているものの実績が伸

びないところかなと感じている。地元等で鉄道をどうするのかというところを考えていかなくてはいけない。バスと鉄道が競合してしまうところもあって、人口がたくさんいて利用客がたくさんいればいいが現実はそうではない。地域の公共交通と組み合わせる中で、どう鉄道を位置付けて活用していくのか、また、その鉄道がその地域にある意義という部分含めて曖昧なままではなく、しっかりと考えていかないといけない。

●佐野部会長

三セク鉄道をいかに利用していただけるか、自治体よりももっと狭いエリアで何ができるのかを構築していくことが大事であろう。

例えば、内陸線は田んぼアートを見るために内陸線を利用するという方がいたり、由利高原鉄道を利用して、ひな人形をみて町歩きを楽しんだりという方々もいる。自分たちの取組で鉄道を利用する方に楽しみを提供できることを沿線の住民に分かってもらって、新しいことをもっと考えてもらいたい。これがひいては地域活性化にもつながり、三セク鉄道のあ  
る地域の価値にもなるのではないかな。